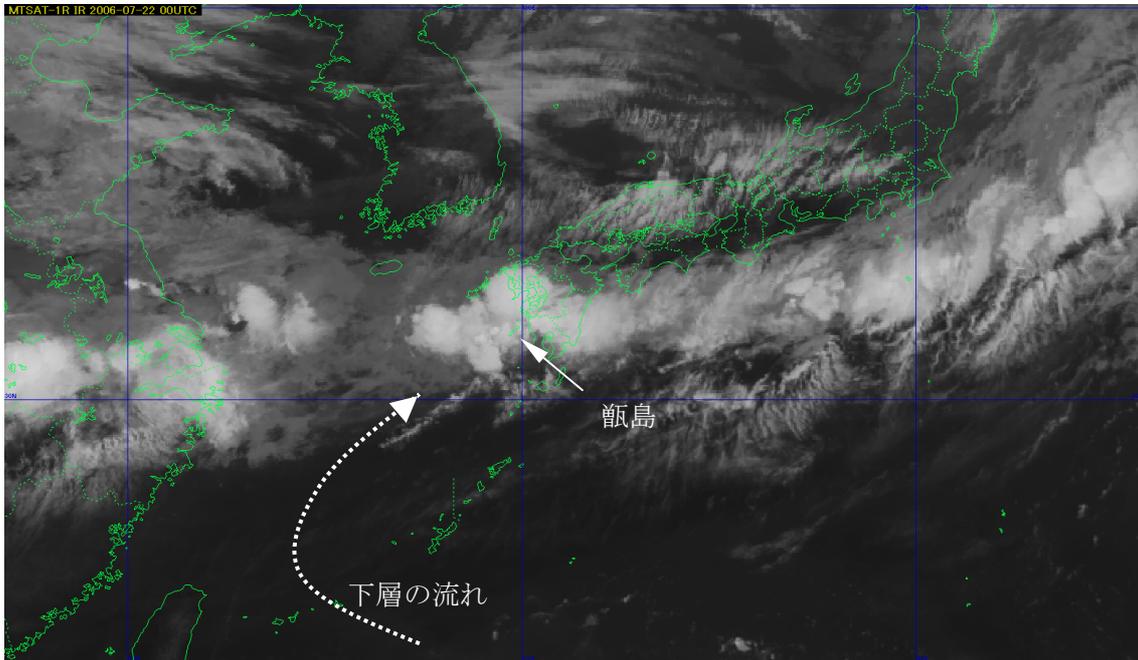


# 今月の気象衛星画像 (2006年7月)



2006年7月22日9時の赤外画像

## 梅雨前線上で発達した積乱雲

梅雨末期になると日本の南海上にある台風や太平洋高気圧の縁辺から梅雨前線に向かって暖湿気が流れ込み、その先端付近で積乱雲が発達して大雨となり大きな災害を発生させることが多い。

今年も梅雨末期にあたる7月15日から24日にかけて、九州から本州付近に停滞していた梅雨前線に、太平洋高気圧の縁辺を回るように暖湿気が流れ込み各地で大雨となった。

7月22日は九州南部を中心に日雨量が400mm以上、多い所では500mmを越える豪雨となり鹿児島県さつま柏原では10時までの1時間雨量は88mmで猛烈な雨となった。

画像は猛烈な雨が降った頃の7月22日9時の赤外画像である。この画像によれば東日本の沿岸から九州地方にかけて梅雨前線が停滞し、特に九州付近では雲バンドが北側に折れ曲がり、この付近では破線で示すように太平洋高気圧の縁辺を回る暖湿気が次々に梅雨前線に流れ込み積乱雲が発達していた。

鹿児島県西海上にある甌島（こしきじま）列島付近から九州南部にかかる積乱雲の雲頂高度は約14kmと非常に発達し、また甌島列島の西側の発達した積乱雲も次々と九州南部を指向していた。

(気象衛星センター)